

本年の仕事納めに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今年一年を振り返りますと、やはり何と言っても、大震災、大津波、福島原発の事故、また夏には和歌山県などで台風による風水害など、かつてなかったような大災害が日本で起こった年でありました。

また、島根県におきましても、昨年末からの鳥インフルエンザの対策、年初の大雪、いろいろありました。

こうした大災害の中で、東日本の被災地に日本全国から多くの方々がボランティアなどとしてお出掛けになり、被災地の方々の復旧の支援に当たられたわけでもあります。

そしてまた、多くの国民、県民の方々が、多くの義捐金をお出しになりました。

こういうことを通じまして、我々が人と人とのつながり、絆という言葉が今年の文字に選ばれましたけれども、そうした絆の大切さということを感じさせられた年であったと思うわけでもあります。

また、福島原発の事故は、まだまだ原因の究明、それに続く対策、あるいは避難のための対策等々、課題を残しているのです。島根県でも、汚染をされた稲わらによって、島根の農業が大きな影響を受けました。

安全安心の島根をいかに築いていくかと言うことが、大きな課題として、我々の前に引き続き存在しております。

また、経済の状況を見ましても、これは世界的な問題でありますけれども、欧州の危機でありますとか、そうしたものが日本にも大きな影響を及ぼしております。円高の問題もあります。

そうしたものに対しまして、政府も数次にわたりまして対策を打ってまいりました。私ども県も県民の方々の生活を守り、経済の振興を行うということで累次の対策も取ってきております。こうした対策も、まだまだ終わるといような状況にはないわけでありまして、引き続き、対応していかなければなら

い課題として残っているのです。

こうした多くの問題がありますが、悪いことばかりではなかったと思います。

県の動きを見ますと、6月にはドクターヘリの運航を開始し、県内の医療の確保に大きな貢献をし始めております。

神々の国プロジェクトが、年初に実行委員会が立ち上がり、その準備が進められております。斐伊川神戸川治水事業にも進展があります。長年の懸案でありました大橋川の改修に着手されることとなりました。

市町村合併では、ご承知のとおり新しい松江市、出雲市が誕生しました。松江市は特例市に移行することが決定をしております。

社会資本の整備では、浜田港が日本海側の拠点港に指定され、その整備が進められることになりました。山陰道の早期整備、大きな課題としてありますけれども、年末の予算編成の中で、3区間が新たに着手されるということになりました。

隠岐もジオパークが世界認定候補になり、来年の夏にはその審査が行われることとなりました。佐陀神能がユネスコの無形文化遺産に登録されたという、嬉しいニュースもありました。

さらに、県出身の若者たちが多くの分野で活躍をした年でありました。

テニスの錦織圭選手、将棋の里見可奈さん、隠岐の海関。隠岐の海関は来年初場所には「三役を目指して頑張る」と言っておられるわけであります。我々も心より声援を送りたいと思います。

また、高校総体、国体でも若者の活躍が随分ありました。文化面では、全国の合唱コンクールなどにおきまして、斐川西中学校、島大附属中学校、出雲北陵高校ブラスバンド部が金賞を受賞しております。

来年に向けましても、いろいろ新しい動きが続くわけでございますけれども、今年一年は、皆様方にとって、本当に忙しい年ではなかったかと思えます。

県民の方々のために、職務に精励され、一生懸命頑張ってください、その努力対しまして、心から感謝を申し上げる次第であります。

こうした厳しい中、皆様方にご理解とご協力をいただきながら、実施をしてまいりました給与の特例減額につきましては、人事委員会の勧告を踏まえ、そして年末の国の予算の対応等を見、職員組合の方々とも話をしまして、一般職につきまして、本年度3月末をもって、終了をするということで合意をしたところであります。

顧みますと、平成15年から9年間続いたわけでございます。この間の皆様のご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。

しかし、財政の健全化の努力は引き続き行って行く必要があります。

さらに業務の合理化・効率化等を進めていかなければならないと思っておりますが、そういう中で、職場環境を元気あるものにしなければならないと思っております。

ここにおられます幹部職員の方々には、そうした面におきまして、自分のグループの職員的心情等の把握に努められ、そしてまた、各部局内でいろんな意見交換等ができ、風通しの良い職場となるように、更に努力をお願い申し上げます。

本年も残りわずかとなりましたが、先程来申し上げましたように、我々が直面しております多くの課題は来年に持ち越されるわけであります。

そういう意味におきまして、来年も気を引き締めて、県民の方々に対して職務に精励しなければならないと思っております。

その前に、これから正月にかけて、数日間の休日をゆっくり過ごされ、英気を養っていただきたいと思っております。

来年が、県民の皆様にとりまして、明るく活気のある年となるよう、皆さんとともに一丸となって取り組んでまいりたいと思っておりますので、宜しく願い申し上げます。

県民の皆様、職員の皆さんがそれぞれ良い年をお迎えになりますよう、ご祈念申し上げます、私の挨拶といたします。